

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
3	臨床病態学(麻酔・救急) (Clinical Pathophysiology : Anesthesiology and Emergency medicine)	専門科目 コース共通専門分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	前		安部 隆三 内線： E-mail : ryuzoabe@oita-u. ac. jp 松本 重清 内線： E-mail : sigekiyo@oita-u. ac. jp 新宮 千尋 内線： E-mail : cshingu@oita-u. ac. jp

【授業の概要・到達目標】

医療では予測できない事象が必ず発生する(医療の不確実性)。中でも患者急変時の対応能力は医療者に必須である。ここでは、先進医療を安全に実施するために必要な麻酔・救急医学領域の能力修得を行う。麻酔は患者の意識及び痛みを取り除くだけでなく、呼吸・循環等の全身管理と患者急変時対応能力が重要であり、麻酔方法を含めた全身管理を学ぶ。救急では、心肺蘇生法、外傷、中毒、災害医療だけでなく患者救命のための全身管理を学ぶ。この領域では先進医療として多くの機器が導入されており、麻酔・救急関連領域の先進医療も学ぶ。

具体的な到達目標	ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 手術室・集中治療・救急医療での役割を理解する。	○					
2. 緊急度の高い患者の診察法、検査法、治療法を学ぶ。	○					
3. 救急医療におけるチーム医療と救急医療システムを理解する。	○	○			○	
4.						

【授業の内容】

1	麻酔科学 (総論) : 麻酔科学の歴史、手術室での麻酔、心肺脳蘇生	手術部
2	麻酔科学 (各論) : 全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、局所麻酔、伝達麻酔	手術部
3	麻酔科学 (各論) : ペインクリニック(各種神経ブロック・対象疾患)、緩和医療	麻酔科
4	麻酔科学 (各論) : 集中治療 (呼吸管理・循環管理・術後管理) と生体機能代行装置学	麻酔科
5	救急医学・集中治療医学 (総論) 救急・集中治療の体制と特徴	救急科
6	救急医学・集中治療医学 (各論) : 心肺脳蘇生と人工臓器	救急科
7	救急医学・集中治療医学 (各論) ICU・CCU・NICU	麻酔科
8	救急医学・集中治療医学 (各論) : 患者管理及び人工臓器管理	救急科
9	救急医学・集中治療医学 (各論) : 生理学検査及び処置 (呼吸器系、循環器系、代謝・腎臓系、神経系)	麻酔科
10	救急医療 (各論) : 一般的救急措置、救急医療システム、救急医療体制、チーム医療	救急科
11	救急医療 (各論) : 救急診療上必要な検査 (心電図、超音波、CT 等)	救急科
12	救急医療 (各論) : 救急診療上必要な検査 (一次救命処置/BLS、輸血検査/血液型遺伝と検査)	救急科
13	手術医学 (各論) : 感染防止、手術用機器及びロボット手術	手術部
14	手術医学 (各論) : 麻酔器・麻酔関連機器、モニタ機器	麻酔科
15	まとめ	

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A : 知識の定着・確認	○	発問を活用しつつ、ディスカッションを行う	【その他の工夫】 Moodle 上に講義資料をアップロードして学生が使用できる環境を整備する。
B : 意見の表現・交換	○	症例提示を行い、実際に臨床での評価・判断についてディスカッションを行う	
C : 応用志向			
D : 知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	参考書、配布資料を用いた予習を 1 時間/日程度求める
事後学修	将来の国家試験に備え、修得した新たな知識を普段使用している学習書に追記していく (1h/日)

【教科書】**【参考書】**

標準麻酔科学 医学書院；第7版 ISBN-10: 4260030302

ICUブック 第4版 メディカルサイエンスインターナショナル ISBN-10: 4895928314

ICU実践ハンドブック改訂版～病態ごとの治療・管理の進め方 羊土社 ISBN-10 : 4758118450

標準救急医学 医学書院；第5版 ISBN-10: 4260017551

外傷初期診療ガイドライン-JATEC；第5版 ISBN-10: 4892698989

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4
レポート提出	100%				

【注意事項】**【備考】**

教員の実務経験の有無	有	
教員の実務経験	附属病院で臨床業務に従事	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有	
教員以外の指導に関わる実務経験者	附属病院で臨床業務に就く医師	
実務経験をいかした教育内容	豊富な臨床実務経験を生かした講義とディスカッションを行う	
授業形態	対面またはオンライン	